

大津企業景況調査報告書

(第38回)

平成19年7月～9月期 実績

平成19年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成19年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
建設業	20社	18社	90.0%
製造業	10社	10社	100.0%
卸売業	10社	10社	100.0%
小売業	30社	30社	100.0%
サービス業	30社	30社	100.0%
合計	100社	98社	98.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成19年7月～9月とし、調査時点は平成19年9月10日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index(景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

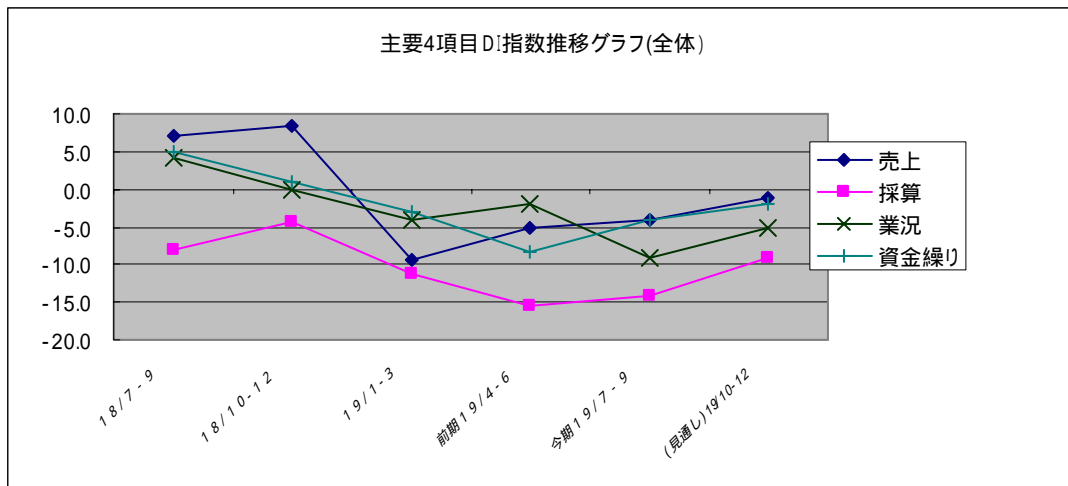
「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

弱含みの状況

平成19年7月～9月期の大津企業景況調査結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数(景気動向指数)を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

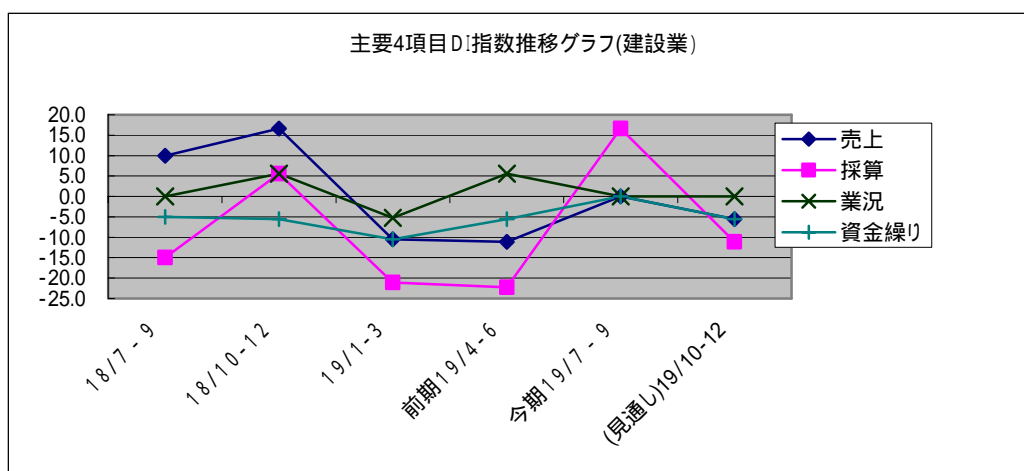
前期は景気が粘り腰の状況を示していたが、今期は弱含みの状況を示している。全体のDI指数をみると「業況」指数(「好転」-「悪化」)は、前期の2から今期9とマイナス幅が拡大した。「売上」指数(「増加」-「減少」)も5から4と減少傾向が続いている。「採算(経常利益)」指数(「好転」-「悪化」)は16から14に悪化が続いているが「採算(経常利益)水準」指数(「黒字」-「赤字」)はプラスで堅調に推移している。「従業員」指数(「不足」-「過剰」)は+10程度のプラスが続いている。「資金繰り」指数(「好転」-「悪化」)は8から4と悪化が続いている。このように弱含み状況がみられるのは原材料費の高止まりが販売価格に転嫁できないことや人手不足が経営を圧迫しているためとみられる。

こうした中、業種別にみるとただら模様になっている。今まで堅調に推移していた製造業において陰りが見え、建設業、卸売業、サービス業は一服が続いている。小売業は依然厳しい状況で推移している。



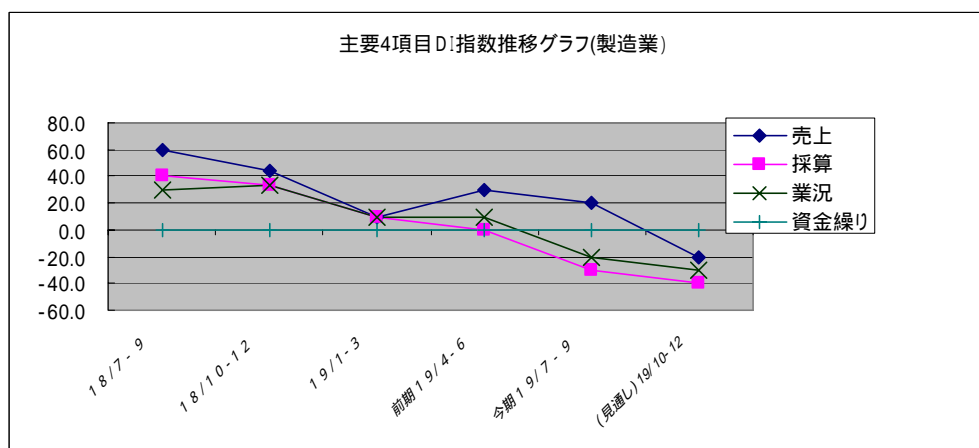
建設業

DI 指数をみると「業況」は前期の+6(好転)から今期 0(横ばい)となった。「売上」が 11(減少)から今期 0(横ばい)となり落ち着いた。「採算」は 22(悪化)から+17(好転)に転じた。「従業員」の不足感が続いていることから、忙しい状況が続いているとみられる。「資金繰り」は 6(悪化)から 0(横ばい)と落ち着いた。しかし「取引の問合せ」は 11 から 6 と低調である。



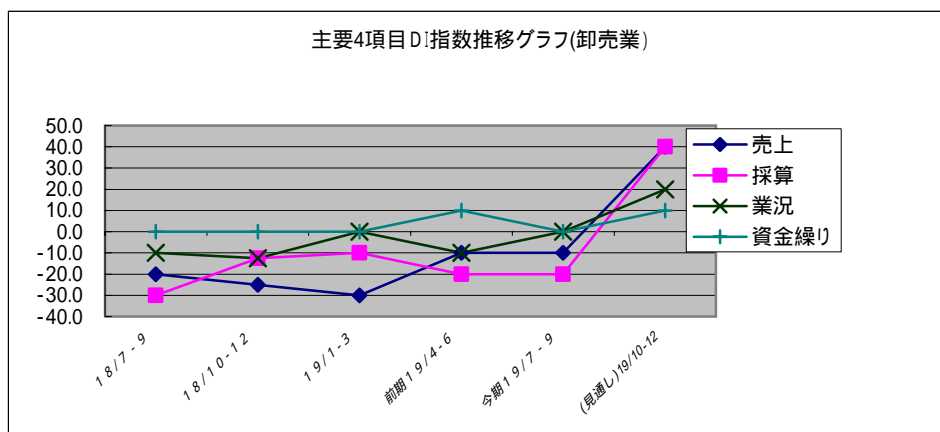
製造業

DI 指数をみると「業況」は前期まで+10 程度の好転が続いていたが、今期は 20 と悪化傾向がみられる。「売上」が+30 から+20 と増加が続き、「採算水準」は+50 程度のプラス(黒字)で推移しているが、「採算」は悪化した。「従業員」は不足感がなくなった。「資金繰り」、「資金調達」は安定した状況が続いているとみられる。



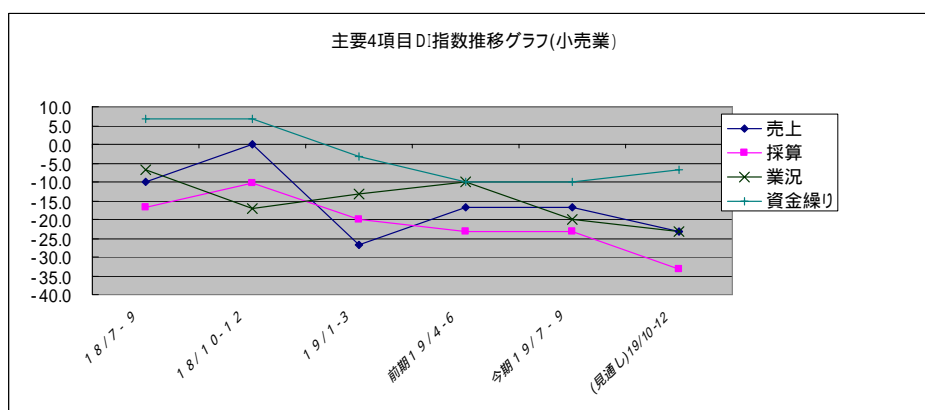
卸売業

DI 指数をみると「業況」はここしばらく水面下の状況にあったが、今期は0(横ばい)となった。「売上」が 10で下げ止まりつつあり、「採算水準」は0から+20と黒字に回復した。「資金繰り」、「資金調達」は安定しているが、「従業員」は業種の中で唯一マイナス(過剰)となっている。



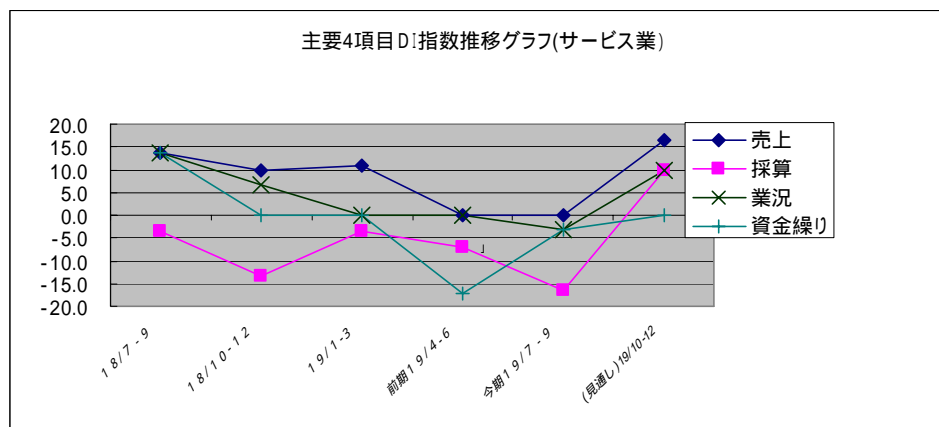
小売業

DI 指数をみると「業況」は前期の 10から今期 20と依然悪化傾向が続いている。「売上」は 17から 17と悪化が続き、「採算」が 23から 23と悪化傾向が止まっていない。「取引の問合せ」は 27程度で低調に推移している。「従業員」は+13から+13と人員不足が続いている。「資金繰り」はやや悪化しており、「資金調達」もやや厳しい状況である。



サービス業

DI 指数をみると「業況」は前期 0(横ばい)から今期は 3 とやや悪化した。「売上」は前期、今期とも 0(横ばい)と、黒字を維持しているが、「採算」が 7 から 17 へと悪化が続いているためとみられる。「従業員」は+10 から+20 と人員不足感が継続している。「資金繰り」は 17 から 3 へ悪化傾向が続き、資金繰りは少し厳しい状況である。



来期の見通しについて、全体では「業況」は今期に続き弱含みで推移する見通しである。「売上」は僅かにマイナス(減少)で、「採算」も僅かにマイナス(悪化)が続くが、「採算水準」は黒字を維持する見通しである。「取引の問合せ」もマイナス(低調)が続くとみているが、「従業員」の不足傾向は続くとみている。「資金繰り」はやや悪化するとみている。

業種別では、製造業は弱含みが続くとみており、建設業は横ばいで推移するとみている。一方、卸売業、サービス業は改善するとみている。他方、小売業は今後も厳しい状況が続くとみている。

来期の設備投資についても先行きの景況感を反映して弱含み傾向にある。

設備投資計画があると回答した企業の割合が 17%で、前期比 6ポイント減少した。製造業では 40%(前期比 10ポイント)が、卸売業で 20%(同 10ポイント)が、サービス業では 13%(同 11ポイント)が計画しているが、前期比軒並み減少している。小売業は 17%が、建設業は 11%が投資を計画しているが比率は低調である。

設備投資の中味は設備更新投資が 44%と多く、合理化・省力化投資がサービス業を中心に 39%とこれに続く。生産力増強投資は 11%で前期比 19ポイント減少した。

(中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は3社であった。

- ・ 大津地域を何をよりどころにして活性化する(活力を持たせる)かのビジョンが見えると、安心して日々の仕事に取り組める。
- ・ 70歳以上の方に対するクレジットが利用できない件、一部企業の過量販売に対し、全てに政府が網をかぶせてしまうことにより、売掛金の増加、キャッシュフローの悪化が経営に影響してきている。
- ・ 介護保険制度改正によりますます悪化している。

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経 常 利 益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	9	5	4	1	14	9
建 設 業	0	0	0	1	3	2
製 造 業	2	3	2	2	3	4
卸 売 業	0	2	1	4	2	4
小 売 業	6	7	5	7	7	10
サービ業	1	3	0	5	5	3
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	6	12	16	11	12	11
建 設 業	1	2	1	0	3	3
製 造 業	5	6	2	2	0	0
卸 売 業	2	3	0	0	1	1
小 売 業	5	5	8	6	4	4
サービ業	3	6	5	3	6	5
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12期 見通し	7-9月期 動向	10-12期 見通し	7-9月期 動向	10-12期 見通し
全 体	4	2	2	2	2	4
建 設 業	0	1	2	2	1	1
製 造 業	0	0	0	1	0	0
卸 売 業	0	1	1	0	0	2
小 売 業	3	2	0	0	0	0
サービス業	1	0	1	1	1	1
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

大 津 商 工 会 議 所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号
コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>